

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO（市民団体）OSAKAゆめネット

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

祈りの難波宮 キャンドルナイト&難波宮おおそうじ

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9月	当会理事会 実施にむけての会議 難波宮史跡公園使用許可書
10月	参加団体募集 後援、共催依頼、参加団体説明会
11月	参加団体説明会 実施にむけての会議
12月	実施にむけての会議 事業実施 反省会、今後に向けての意見交換会
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	当日は、寒波にもかかわらず、315名の方々に参加していただいた。大掃除、ワークショップでは大人も子どもも楽しく学び、ふれあうことができ、また難波宮の知識が深まったことがアンケート調査でも明らかとなった。キャンドルナイト、ステージは地震や災害に遭われた方々への鎮魂の意をこめて行ったことで会場が感動に包まれた。
今後の展望	大阪で活躍する多くの団体にこれからも参加を呼びかけ、新しい枠組みの仲間作りと交流に寄与したい。 参加型とし、大人だけでなく次世代を担う子どもたちを育てることにより、地域社会へ大きく貢献していけるよう考えていきたい。 毎年継続することで定着を目指す。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

空堀子どもまちづくりの会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

空堀子どもまちづくり～子ども向け空堀本をつくろう～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
10 月	商店街イベント参加のため調整会議に出席
11 月	商店街イベント参加のため調整会議に出席、アーティストとの調整、第1回ワークショップ下見及び広報
12 月	第1回ワークショップ広報、第1回ワークショップの開催
1 月	第2回ワークショップ広報、アーティストとの調整、第2回ワークショップ、子ども向け空堀本作成
2 月	子ども向け空堀本作成

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	今年度の事業では、子ども向け空堀本の作成及びワークショップの実施を行った。本の作成に当たって、子どもたちは興味の現状を把握するために2回のワークショップを実施した。1回目は商店街イベントの最中に、2回目はオープン台地開催期間に実施した。さらに我々の活動をオープンにするツールとして第2回WSでは、紙芝居アーティストによるWSを実施した。ライブを通じてより通りがかりの人にも興味を持ってもらうことにもなり、大人にも活動を知ってもらう機会を設けることができたといえ、WSの実施には効果があったといえる。
今後の展望	WSの実施に関しては、日常的に生活圏として過ごしている場所であるからこそ、地域に興味を持ち、考える場を設けることで将来のまちの担い手として成長する場として継続することに意義がある。また、子ども向け空堀本には、空堀で実施されている具体例のみならず、まちづくりの基礎知識も加えたものとして作成した。完成後、地域の子どもたちを中心に配布することで、まちづくりに触れる第1歩としての副読本になれる事を期待している。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 13 年 2 月 28 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

からほり倶楽部

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

今までになかった空堀の魅力マップ作成と情報ネットワーク

—福祉、教育、産業、マニアック… 空堀にはもっともっと注目する点があった！

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9 月	東長良中学校の先生と今までのまちづくりの経緯を踏まえてのマップミーティング 日時：9 月 2 日 13 時から 16 時 参加：高見先生、米増、辻、上殿 今までからほり倶楽部が行ってきた、まちづくりの経緯などの話を交え、主に今までの活動エリアについてお話をしながらマップ情報にまとめた マップ作りミーティング 日時：9 月 3 日 19 時から 22 時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、藤野 他 マップ作りの方向性について議論 全国まちづくり会議にてマップ情報ヒアリング 日時：9 月 29 日 10 時から 17 時 参加：米増、上殿、小上馬 他ゲスト多数 マップ作りのための情報ヒアリング
10 月	マップ作りミーティング 日時：10 月 1 日 19 時から 22 時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、藤野 他 マップ作りの方向性・手法について議論 中央区民まつりにてマップ情報ヒアリング 日時：10 月 21 日 10 時から 17 時 参加：小上馬、米増、辻、上殿 他ゲスト多数 マップ作りのための情報ヒアリング
11 月	マップ作りミーティング 日時：11 月 5 日 19 時から 22 時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、藤野 他 マップ作りの方向性・手法について議論 オープン長屋イベントにてマップ情報ヒアリング 日時：11 月 18 日 10 時から 17 時 参加：米増、上殿、六波羅 他ゲスト多数 空堀のおすすめのスポットなどをヒアリング からほり倶楽部総会でマップ作成報告&会議

	日時：11月22日19時から22時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、藤野、山根、小辻 他ゲスト多数 マップ作成の報告と、旧理事の方を中心としてアドバイスなどを頂いた
12月	マップ作りミーティング 日時：12月3日19時から22時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、細井、藤野 他 マップ作りの手法と各部門担当者について議論
1月	マップ作りミーティング 日時：1月7日19時から22時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、細井、藤野 他 マップ作りの各部門担当者に進捗確認などを行った
2月	マップ作りミーティング 日時：2月4日19時から22時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、細井、藤野 他 マップ作りの最終確認 マップ作りミーティング 日時：2月11日19時から22時 参加：小上馬、米増、辻、上殿 印刷版の作り方について会議 マップ作りミーティング&ヒアリング 日時：2月11日13時から17時 参加：小上馬、米増、辻、上殿、六波羅、細井、藤野 他 マップ作りの最終作業

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	今回、まちづくり提案事業として、空堀のまちづくりに関心のある 20 代、30 代を中心とした新メンバーを中心に、空堀に住む人や空堀以外に住む人々を交え、空堀地区にまだ隠れていた魅力あるスポットや歴史情報、生活情報などの地域情報を掘り起こした。 <6つの多角的テーマに基づくマップを作成> からほり倶楽部 HP 内に各テーママップの特設ページを開設した。一部のテーマは印刷用のデータも作成した。 (1) 空堀お地蔵さんマップ【印刷用ページあり ※別紙添付】 ◎URL http://www.karahoriclub.com/ojizou 空堀地区のお地蔵さんとそれにまつわるエピソードなどをマップにまとめた。からほり倶楽部の夏の恒例イベント「地蔵盆なう」ではこのマップを使用して、地域を散策するツアーを行う予定。 (2) English map of Karahori. 【印刷用ページあり ※別紙添付】 ◎URL http://www.karahoriclub.com/english 英語圏の方にも、もっと空堀地区の魅力を知ってほしい！空堀に足を運んで欲しい！という思いで作成した英語版空堀マップ。空堀に住む外国人の方にも協力していただいた。
-----	---

	(3) 空堀中文地図【印刷用ページあり ※別紙添付】 ◎URL http://www.karahoriclub.com/chinese 中国語圏の方にももっと空堀地区の魅力を知ってほしい！空堀に足を運んで欲しい！という思いで作成した中国語版空堀マップ。 (4) 空堀今昔エピソードマップ ◎URL http://www.karahoriclub.com/episode 「空堀まちなみ井戸端会」（空堀地区 HOPE ゾーン協議会）が地域の方へ行ったヒアリングを元にマップを作成しました。 (5) 空堀見どころ撮りどころマップ ◎URL http://www.karahoriclub.com/midokoro 空堀を知り尽くした通なメンバー中心になり、空堀の見どころや、写真撮影スポットをまとめたマップ。 (6) 空堀おけいこマップ ◎URL http://www.karahoriclub.com/okeiko 空堀地区に隠れた魅力的なおけいこ事スポットをまとめた。
今後の 展 望	今回のマップ作成作業を通じて、空堀地区に住む人からも、空堀に住んでいない人からも、さまざまな空堀情報をヒアリングした。空堀を知り尽くしている人でも「こんな魅力がまだあったのか？」などと意外な情報を相互に交換することができた。 また、情報をマップに落とし込み、形にすることで、「これを持ってイベントを開催したり、まちあるきをしよう！」「これを配布することで新たなゲストを空堀に招けるかも・・・」というような、まちづくりの新たな試みにつながったり、新しい層へのアプローチにもつながりそうに楽しめた。 今回のこのまちづくり提案事業は、マップが完成したところでの報告となったが、今後は、このマップをどのように活用し、私達のまちづくり活動に生かしていくかなどを今後の定例会などにおいてメンバー間で議論する必要があると思う。 実施期間内にはコミュニケーションできなかった層、例えば、からほり倶楽部のメール会員などがそうだが、今後メールマガジンにてこのマップの完成を報告し、メール会員など普段あまり交流することのない層からの情報を募るなどして、今後のコミュニケーションの手段としたり、他にない切り口のマップとしてからほり倶楽部の資産になるよう、進化を続けたいと考えている。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

直木三十五記念館

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地を繋ぐことば「きき、はなし、よみ、かく」

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
10 月	企画実施のため出演等の交渉の実施、作家さんとの集（藤岡陽子）
11 月	作家さんとの集い（相場英雄）
12 月	
1 月	勝手に直木賞 長屋路地裏選考会の実施
2 月	南陵講談を語る 作家さんとの集い（百田尚樹） 南国忌

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	本事業を通じて、新たに「ことば」というものに興味をもってもらえたのではないかと思料する。また初めての試みとしてイベント実施時にインターネットでの動画配信を実施した。有効性についての測定を十分に行えていないことは反省点としてあるが今後の情報発信形態の可能性は感じた。今回準備不足や開催時期の調整が十分でなかったことも反省点である。
今後の展望	当初予定していた、朗読等の未実施内容については、記念館の独自事業として5月中に実施の予定である。「作家さんとの集い」については一定の成果があるので今後も定期開催を実施していく。記念館を通じての情報発信については様々な形態で続けていく。特に今回トライアルした動画配信も有効的に利用していきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

NPO後悔しない家造りネットワーク<いい家塾>

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地 たてもの探訪～長期活用されるたてものとは～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9月	
10月	
11月	
12月	12/8（土）愛されたてもの探訪ツアー
1月	
2月	2/23（土）「鬼に訊け」上映会

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	「愛されたてもの探訪ツアー」 ・上町台地の歴史、史跡の再発見。若い方に温故知新を認識してもらえた。 「鬼に訊け」上映会&トークセッション（アンケートから） ・法隆寺の大修理の後、薬師寺白鳳伽藍の復興再生に一生をかけた宮大工西岡常一棟梁の生涯は日本人の誇りであり、多くの人に感動を与えた。 ・多くの「西岡語録」が、本物を追求する大事を教えてくれた。
今後の展望	「鬼に訊け」上映会&トークセッション（アンケートから） ・混沌とした現在の社会状況の中で「教育」の重要性が皆さんの多くの声であった。棟梁の生き様そのものが年令を問わず感動を与えた。学校教育の中で教材として活用して欲しいとの声も多かった。 ・多角的に多方面で活用できる教育効果の高い展開が可能です。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 25 年 2 月 28 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

自転車文化タウンづくりの会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

上町台地で自転車文化を育むまちづくり
～自転車スタンプラリーツアー＆まちなか自転車コンクール～

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9月	スマートフォンのアプリでスタンプを作成 ※スマートフォンアプリ「iStamp」を利用
10月	10/14～10/21 大阪スマートサイクルラリー（自転車スタンプラリー） 10/14 大阪スマートサイクルラリー自転車ツアー
11月	
12月	スマートフォンのアプリでスタンプを作成 ※スマートフォンアプリ「iStamp」を利用
1月	1/26～2/17 大阪自転車スタンプラリーin 上町台地 1/27 大阪自転車スタンプラリーin 上町台地自転車ツアー（北＆南コース）
2月	2/7～2/15 まちなか自転車コンクール in 上町台地

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	1 自転車スタンプラリー（ツアー含む） 自転車スタンプラリーを計2回実施し、スタンプラリーに併せてツアーを開催。ツアーは、実際にスタンプをとって回るという目的が付加されることで、参加者が新しいまち巡りとして楽しんでいた。ツアーでは、その時間にその場にいないと参加できないが、スタンプラリー形式にすることで、上町台地に来た時に期間中いつでも参加できる。このことからツアー参加者以外にも自転車で上町台地を周る人が増えた。 2 まちなか自転車コンクール 上町台地と自転車のかかわりについて着目した写真を集め、コンクール形式で天王寺区役所とオープン台地のクロージングトークに展示した。参加投票型での展示とし、自転車を切り口に、まちの風景を見てもらい、上町台地を考える上で新しい視点を提示できた。
-----	---

今後の 展 望	商店街をはじめ、地域と協力し、スタンプを集めたことによる特典を付けることで、街巡りとは違った目的も生まれ、スタンプラリーの可能性はより大きくなると感じた。出かけたくなる仕掛けとして、また地域を回ってもらう仕組みとして、スタンプラリーを活用した地域振興について、自転車を併せて今後の展開として模索していきたい。 また上町台地での自転車文化の発展のために、自転車に関する問題を、地域と一緒に解決する取り組みにつなげていきたい。
--------------------	---

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

平成 25 年 2 月 28 日

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

應典院寺町倶楽部

共同事業者名（あれば記入してください）

--

2 事業のテーマ・タイトル

お寺発「異界」との対話プロジェクト～ポスト 3.11 のコミュニティデザイン

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9月	哲学者・内山節氏のシンポジウムの実施・映画「塵」の上映と河瀬直美監督とのトークの開催。（チラシ1・チラシ2参照）
10月	思想家・内田樹氏の講演会の実施（チラシ3参照）
11月	グリーンタイムの実施（チラシ4参照）
12月	「自分感謝祭」後の交流会（進行パンフ1参照）
1月	総合文化祭「コモンズフェスタ 2013」開催（1/10～24） （チラシ5・6・7・8参照）
2月	まとめとアフター企画の実施

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	半年にわたりワークショップとセミナー・シンポジウムとアート展示を多彩に展開しました。その際、事業間の複合的に絡めることで、多数の場面で、参加者の方々が出会い直すことが多かったようにお見受けしました。そして、「笑い」と「無き」の場面に立ち会うことが多かったことから、お寺が 1.17 と 3.11 のあいだを見つめる「異日常」の場を提供できたと認識しています。
今後の展望	終点の「コモンズフェスタ 2013」では「とんちで越境！」というテーマを掲げて文化・芸術領域や、福祉・教育の領域の様々な団体が違う領域の方たちと手を携え、物事を協働することの大切さを実感する機会となった。「異界」への扉を開くこと、「異界」にいる人たちと対話を重ねることで、様々な人たちと一緒にこれからの「暮らし」を考えることに来年度は取り組んでいきたい。（チラシ9参照）

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

株式会社ダン計画研究所

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

都市の歴史を紡ぐ風呂屋

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9月	
10月	
11月	
12月	2回：銭湯にまつわるヒアリング 歴史マップ作成
1月	
2月	3回：銭湯にまつわるヒアリング 歴史マップ配布

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	全5回の銭湯にまつわるヒアリングを通じて、お風呂屋さんに対する以下の6つの提言としてまとめる事ができました。 提言1「おっきなお風呂」を見直す！ 「足を伸ばして入ることができる」それだけで、充分高機能。 余計な設備を増やすより、「健康入浴」など、入り方の工夫で、もっと魅力が高まるのでは？ 提言2「エコ銭」をアピールする！ 各家庭でお風呂を沸かすより、ひとつのお風呂屋さんに行く方が、全体で見ればエコ。「温水器」という排水の熱を活かしているしくみも、もっとアピールすべき！
-----	---

	提言3「一見さん」を歓迎する！ 一度も銭湯を利用したことが無い人が、突然、銭湯に行くことはない。まず、お風呂屋さんを知ってもらう、入ってもらう事が大事！ 提言4「一緒に入るメリット」を検討する！ 人と一緒に入るから、安心できる。年を取ったときこそ、おしゃべりができて、入浴のサポートしてもらえるお風呂屋さんが良い！ 提言5「ソーシャルネットワーク」を活用する！ お風呂屋さんの商圏は、やっぱり、基本は徒歩圏内。だからこそ、知っている人同士がつながるソーシャルネットワークは、これからのツールになる！ 提言6「世界」に目を向けよ！ 銭湯は、古代ローマ人も驚愕する日本の文化。特に、大阪城もあれば、大阪府浴場組会の事務所もあるこの上町台地から、世界に向けて、発信しよう！
今後の 展 望	大阪城を有する、大阪文化の中心とも言えるこの上町台地から、銭湯が失われつつあります。現に、高度経済成長以後、ほぼ一定に減り続けている銭湯ですが、このペースで減り続けると、この先 15 年で、大阪府内の銭湯は0軒になると言われています。 この減少を食い止める意味でも、失われた銭湯文化についての聞き取り調査と称して、広く、お風呂屋さんの良さを伝える事を目的に本事業を始めましたが、聞こえてくる声は、予想よりもずっと前向きなものでした。「銭湯は、まだまだいける」「もっとアピールしたらいいのに…」 今回のヒアリングを通じて、お風呂屋さんを利用しない人々に問題があるのではなく、お風呂さんを経営する者、あるいは、組合側に課題があるのでは…という思いを禁じ得ません。取り組む側の些細な心持ちの変化によって、銭湯文化の大いなる確変が期待されます。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

上町台地マイルドHOPEゾーン事業 まちづくり提案事業 事業報告書

1 事業者名

谷町う木う木実行委員会

共同事業者名（あれば記入してください）

2 事業のテーマ・タイトル

谷町う木（き）う木（き）

（上町台地と林産地が連携し、楽しく木のある暮らしを提案する活動を行う）

※応募時につけたテーマ・タイトルを記入してください。

3 事業の時期と実施内容等

時 期	実 施 内 容 等
9月	
10月	う木う木五感ワークショップ 開催
11月	ノリノリ（農林農林）四天王寺 開催
12月	
1月	
2月	

※実施した事業を月ごとに記入してください。

4 事業の効果・今後の展望

効 果	う木う木五感ワークショップでは、五感すべてに《木》の良さ・奥深さを感じられるワークショップを用意し、色々な世代・様々な関心を持つ方々に対して好評であった。 ノリノリ（農林農林）四天王寺イベントも、吉野などの林業地からも生産者と直接話ができる機会をつくり、都市住民が林業や木材についてより深く知ることができ、具体的な都市での暮らしにつながる提案（マンションの床に置いただけユカハリなど）もできた。
今後の展望	徐々にではあるが、林業の現状や、農林産物を都市部で使いこなす‘技’‘知恵’も相互交流によって生まれて生きている。 実際に都市での暮らしに落としこめるまでもう一歩であり、実用化・商品化を、顔と顔が見える関係の中でつづけていきたい。

※「3 事業の時期と実施内容等」、「4 事業の効果・今後の展望」は、欄内に記入の上、これらを補足するようなパンフレット・チラシ・写真等があれば適宜添付してください。

大阪美術学校の設立と創成期

～大正末期から昭和初期の大阪での芸術運動の変遷～（要旨）

小辻昌平

大阪市南区天王寺悲田院町に大正 13 年（1924 年）6 月に開校した大阪美術学校は、南画家の矢野橋村、日本画家の福岡青嵐、洋画家の斉藤与里を指導教員に据え、大阪府の認可学校としてはじめての本格的に総合的な美術教育を実施する学校であった。

大阪美術学校は昭和 4 年に北河内郡牧野村と京阪電車の沿線開発計画に基づく、学校移転誘致によって現在の枚方市御殿山に移転するまでの間、上町台地の中、西に天王寺公園、北に四天王寺の伽藍が見えるという環境にあったが、その実態を正確に伝えるものはあまりなかった。そこで本研究では特に悲田院町時代の大阪美術学校について注目し、当時の時代背景や美術教育の実態等も考察した。

大阪美術学校の設立経緯の中で重要な役割を果たしている一人が直木三十五である。私は直木三十五記念館事務局長として直木三十五研究を続けているが、直木のバイオグラフィー上もこの大阪美術学校への関与は重要な意味あいをもつと考えられるが、残念ながら細かい検証や記録に乏しい部分でもあった。

直木と矢野の出会いはおそらく大正 6 年（1917 年）あたりであると推察される。矢野は同年に復興日本美術院展に作品を出品、院友に推挙されている。一方の直木は都新聞の林田春潮に誘われ氏が主宰する美術研究会で画家から会への協賛というかたちで絵を描いてもらい、それを販売するという画商まがいの仕事を一年近く続けている。また同時期に築地にあった新興美術社に勤め、雑誌「新興美術」の編集を行っている。

大正 8 年（1919 年）には、矢野橋村は直木三十五らとつくった美術文芸集団「主潮社」で第一回主潮社展「矢野橋村・福岡青嵐第一回個人展覧会」を実施しているが、同年 4 月に直木三十五は春秋社に籍をおきながら、新しい海外文芸作品の翻訳を中心にした雑誌「主潮」を編集・発行した。この雑誌は 6 号で廃刊の憂き目を見る。この二つの「主潮」はどうやら同じ動きの中で行われていたようである。

主潮社での活動はその後、主潮社展の他に、大正 9 年（1920 年）11 月 20 日に中之島中央公会堂にて自由大学文芸講座を開催している。これは直木三十五が東京から菊池寛、芥川龍之介、久米正雄、宇野浩二らを招き講演会をするとともに、もう一つの目的として主潮社のメンバーと東京の新進文士たちを引き合わせることであった。

大阪には古くから二つの洋画研究所があった。一つは明治 23 年（1890 年）に大阪師範学校に岡山から招かれた松原三五郎の天彩画塾。もう一つは赤松麟作が明治 40 年（1907 年）にはじめた赤松洋画塾である。

その後大正 10 年（1921 年）に普門暁が赤松麟作、斉藤与里らの協力の下で自由美術研究所を設立するが 1 年余りで消滅。大正 12 年（1923 年）に青木宏峯が新灯社を開設。大正 13 年（1924 年）4 月に新鋭二科会員である小出檐重、鍋井克之、国枝金三、黒田重太郎を教師陣に信濃橋洋画研究所が開設され、同 6 月に大阪美術学校が開設され、翌々年大正 15 年（1925 年）に大阪市南区心斎橋筋の丹平ハウスに赤松洋画研究所が開設された。こうしてようやく近代都市大大阪の発展の熱気が美術教育にも及びはじめてきたといえる。

しかしながら、東京はもとより、京都にも美術教育という点では遅れており、ことに公共の教育機関という点では半世紀遅れ、大正 12 年（1923 年）に大阪市立工芸学校が開設されていた。

開設当時の大阪美術学校は、授業が午前、午後、夜間の三部制で、本科 3 年、専攻科 2 年、入学試験は面接のみ。入学金 15 円、他に月謝 5 円であった。初年度の入学者は 150 人（男子 120 人、女子 30 人）と記録されている。本科の入学資格は小学校卒業でもよく、しかしながら卒業しても資格的なものは得られなかった。これは画家を志望しながらも師事できる人と簡単に出会えず苦労したという矢野自身の経験に由来しており、希望すれば誰もが学べる学校を作るという理想を実現したものである。

資金が十分ではなかったため事務室、モデル室、石膏室、日本画室などの間に、矢野橋村、斉藤与里、福岡青嵐の画室が割り込むかたちとなり、手狭であり、はじめから仮校舎と呼ばれていた。学校は純然たる学生の自治学園であり自由と自治を旨とし、教師は学園の先輩ではあるが、一画学生である点においては生徒同様に学校はむしろ共通のアトリエという雰囲気であったそうである。学校運営上、①幹事②整理委員③モデル係④日本画部委員⑤洋画部委員が置かれ学校運営に参画している。

また資格を得ることを旨としない美術学校であるため美術家として一人立っていくために人としての素養を作ることを重視し、「元気」と「理解」が必要だとしている。月一回作品を持ち寄り開かれる批評会のあとには必ず弁論会を開催し「理解」することを実践している。

大正 14 年（1925 年）には心斎橋筋高島屋旧館にて第 1 回大阪美術学校展覧会（大美展）を開催。昭和 2 年（1926 年）からは中之島朝日会館で大美展を開催し朝日新聞社後援になる。以降大美展は第 10 回まで朝日会館で開催されるなど学外での活動の活発に行っており、昭和 2 年からは校友会誌というものを発行している。なお今回は悲田院町の校舎の外観を一部写っている写真を発見している。しがしながら学校の正確な地番等の特定には至らなかった。